



The 39th Annual Meeting of Japanese Society of Ocular Oncology

第39回 日本眼腫瘍学会

標準治療と個別化治療

プログラム・講演抄録集

会期 2022年
9月17日(土)・18日(日)

会場 国立がん研究センター
新研究棟大会議室

会長 鈴木 茂伸
国立がん研究センター中央病院
眼腫瘍科 科長



The 39th Annual Meeting of Japanese Society of Ocular Oncology

第39回 日本眼腫瘍学会

プログラム・講演抄録集

標準治療と個別化治療

会期 2022年9月17日(土)・18日(日)

会場 国立がん研究センター
新研究棟大会議室

会長 鈴木 茂伸
国立がん研究センター中央病院 眼腫瘍科 科長

主催 日本眼腫瘍学会

URL <https://jsoo39.secand.net/>

第39回日本眼腫瘍学会事務局

国立がん研究センター中央病院 眼腫瘍科

〒104-0045 東京都中央区築地5-1-1

E-mail : jsoo39@procom-i.jp

第39回日本眼腫瘍学会

会長挨拶

会長 鈴木 茂伸 国立がん研究センター
中央病院 眼腫瘍科 科長



この度、第39回日本眼腫瘍学会を開催させていただくことになりました。伝統ある本学会の会長を拝命し、学会員ならびに関係各位の皆様には厚く御礼申し上げます。

現在の腫瘍の診療において、腫瘍の遺伝子パネル検査が保険収載され、効果あるいは副作用を考慮した個別化治療が行われるようになってきています。実際の効果が得られるのは一部にとどまりますが、治療のパラダイムシフトの可能性が 있습니다。ところで、標準治療とはどのようなもののでしょうか。これは臨床試験を重ね、治療法を比較・改善してきた結果として成り立つものです。眼腫瘍はどうでしょうか。残念ながら眼腫瘍は超希少疾患であり比較試験は非常に限られるため、標準治療の名に値するものは確立していません。希少疾患はすべてが個別治療かもしれませんが、やはり標準があつての個別治療だと考えます。あらためて眼腫瘍の診療を振り返る意味も含め、学会のテーマを「標準治療と個別化治療」といたしました。希少疾患の制約を解決するために、いくつかの研究手法が試みられており、今回はともに学ぶために「眼腫瘍における疫学研究・データサイエンス」というシンポジウムを企画しました。

特別講演は、国立がん研究センター中央病院皮膚腫瘍科の山崎直也先生に、悪性黒色腫についてお話しいただきます。眼部悪性黒色腫の転移症例の治療で大変お世話になっておりますが、悪性黒色腫に対する治療の変遷や新規薬剤の承認を含めたお話を伺うことは、今後の我々の治療開発に大いに役立つものと考えます。

COVID-19の流行が始まって2年以上経過しましたが、未だ終息が見えません。築地市場跡地も現在は東京都の酸素ステーションになっています。しかし本学会の醍醐味は熱い討論ですので、現地開催、対面での学会開催にこだわって準備してまいりました。感染対策を行いつつ、多くの先生方のご参加、熱い討論をお待ちしております。

会場アクセス図



△ 会場へは、こちらの入り口をご利用ください。

会場(研究棟)入口のご案内

■ 地下鉄・メトロ

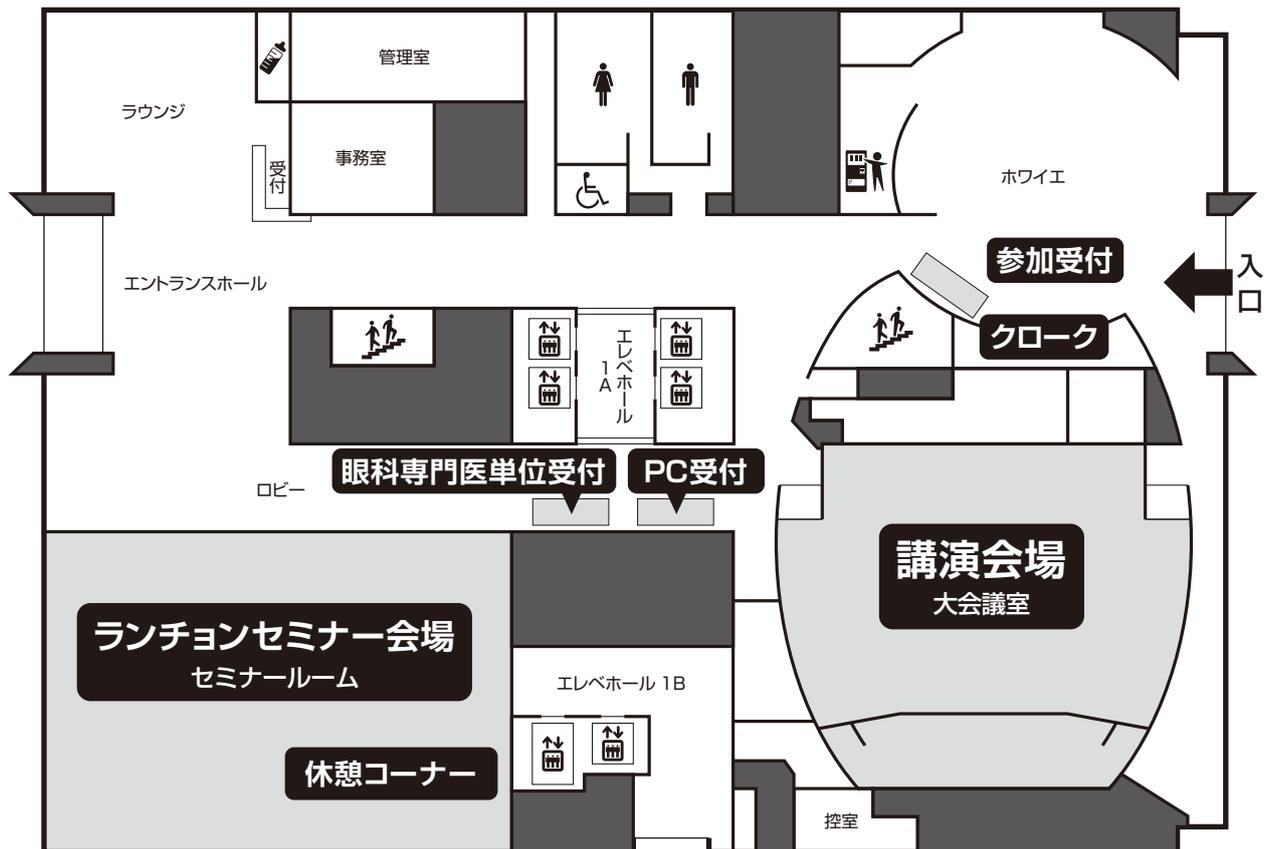
- 都営地下鉄 大江戸線 …… 築地市場駅A1番出口から
徒歩3分
- 東京メトロ 日比谷線 …… 築地駅2番出口から
徒歩5分
- 東京メトロ 日比谷線・都営地下鉄 浅草線
…………… 東銀座駅6番出口から
徒歩6分
- 東京メトロ 有楽町線 …… 新富町駅4番出口から
徒歩9分

■ バス

- 市01(都営) …………… 国立がん研究センター前バス停から徒歩3分
- 業10/都03/都04/都05-1/都05-2(都営) …………… 築地三丁目バス停から徒歩5分



会場案内図



参加者へのご案内

感染対策について

- 発熱や咳などの症状がある場合や、健康に不安がある方はご来場をお控えください。
- 参加受付の前に、手指のアルコール消毒にご協力をお願いいたします。
- 新型コロナウイルス感染症対策のため、受付にて健康状態申告書のご記入、検温にご協力をお願いいたします。
※健康状態申告書：本会ホームページよりダウンロードのうえ、必要事項を記載してご持参ください。
- 会場内ではマスクを着用のうえ、間隔をあけてご着席ください。

受付方法

〈事前登録された方〉

- 会場での参加登録受付の必要はございません。
- 事前に送付したネームカードを忘れずにご持参いただき、会期中は必ずご着用ください。
- ネームカードホルダーは受付付近にご準備いたします。
- プログラム・講演抄録集を忘れずにご持参ください。追加でご希望の場合は、受付にて1部1,000円にて販売いたします。

〈当日参加される方〉

当日参加登録受付

支払い方法：現金のみになります。

受付場所：国立がん研究センター研究棟1階 大会議室前ホワイエ

受付時間：9月17日（土）8:00～18:00

9月18日（日）8:00～12:30

ネームカードをお渡しいたしますので、所属・氏名をご記入の上、会期中は必ずご着用ください。

参加登録費

	当日参加費	事前参加登録費 ※締め切りました
会員医師	10,000円	8,000円
非会員医師	13,000円	11,000円
非医師・民間研究員	13,000円	11,000円
初期研修医・コメディカル、医師以外の大学院生	5,000円	3,000円
大学院生を除く学生（医学生、視能訓練士学生、留学生）	1,000円	1,000円

プログラム・講演抄録集

参加登録費に含まれます。また、本会ホームページより、パスワードを入力して閲覧・ダウンロードをしていただくことも可能です。

【パスワード】 39js00

なお、別途必要な方は1冊1,000円にて販売いたします。

懇親会

本年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため開催はございません。

専門医制度単位受付(日本眼科学会生涯教育認定事業)：認定番号 59150

日本眼科学会専門医制度登録証(カード)を必ずご持参ください。

受付場所	セミナールーム前ロビー
受付時間	9月17日(土) 8:30～17:00 3単位
取得単位	9月18日(日) 8:30～12:00 2単位

クローク

受付場所：大会議室前ホワイエ

受付時間：9月17日(土) 8:30～18:30

9月18日(日) 8:30～14:00

※お荷物は必ず開設時間内にお受け取り下さい。日をまたいでのお預かりは致しませんのでご注意ください。

※貴重品のお預かりはできません。ご自身で管理をお願いいたします。

会場でのご注意

- 著作権保護のため、発表者や事務局の許可がない撮影・録音は一切禁止致します。
- 講演会場内では携帯電話、スマートフォンはマナーモードに切り替えるか、電源をお切りください。
- 講演会場内では飲食禁止となっています。飲み物のお持ち込みも禁止させていただきます。飲食は会場前ホワイエ、休憩コーナー(セミナールーム)をお願いいたします。
- 国立がん研究センター敷地内は全面禁煙です。

共催セミナー

- ランチョンセミナーではお弁当をご用意いたします。
- 数に限りがございますので、あらかじめご了承ください。なお、整理券の配布はいたしません。
- 大会議室(講演会場)は飲食禁止ですので、午前のセッションが終了しましたらセミナールームへ移動し、お弁当を受け取り入室してください。

休憩コーナー

- セミナールームに休憩コーナーを設置いたします。
- 共催セミナーの時間帯は一時閉鎖させていただきます。

関連会議

日本眼腫瘍学会 理事会

会期中の開催はございません。

日本眼腫瘍学会 総会

日 時：9月17日(土) 13:50～14:05

会 場：国立がん研究センター研究棟 大会議室

駐 車 場

本会専用の駐車場のご用意はございません。公共交通機関をご利用ください。

講演規定

本学会の講演はデジタルプレゼンテーション(1面)による発表のみとなります。

講演時間

- 一般口演の発表時間は、発表7分、質疑応答5分の計12分です。
- 特別講演、シンポジウム、共催セミナーは指定された時間をお願いします。
- 時間厳守をお願い致します。

スライド作成における注意事項

スライドは参加者が容易に理解できるように作成してください。

[スライドの文字数]

1枚のスライドに多くの文字を配置する込み入ったスライドはお避けください。

[スライド提示時間と講演内容]

スライドに掲載されている内容を把握するのに十分な提示時間と講演の内容のバランスに配慮してください。

[使用する色ならびに混合色への配慮]

1枚のスライドに多数の色を使用することは避けてください。背景色と文字とのコントラストが十分にあるものにしてください。

座長の方へ

座長受付はございません。担当セッション開始15分前までに、会場内右手前方の次座長席へご着席ください。

演者の方へ

データの受付

発表者は、講演開始30分前までに、必ず「PC 受付」にて受付をお済ませください。

PC 受付：セミナールーム前ロビー

受付時間：9月17日（土）8:30～17:30

9月18日（日）8:30～11:00

発表に関するご案内

1. 発表データは USB メモリーか CD-R でご持参ください。
2. ファイルは、PowerPoint 2010～2019 のバージョンで作成してください。
また、文字化けやレイアウトのずれを防止するために、下記フォントを推奨いたします。
推奨フォント：Windows 版 MS 明朝 / MS ゴシック / Times New Roman / Century
3. 解像度を HD (16:9 の比率) に合わせてレイアウトの確認をしてください。
※従来の XGA 1024 × 768 (4:3 の比率) の解像度も投影は可能です。
4. 保存時のデータファイル名は「演題番号_演者氏名」としてください。
5. Macintosh をご使用の場合は、念のためご自身の PC 本体をお持ち込みください。また、専用の交換コネクタおよび AC アダプターを必ずご持参ください。
6. 進行を円滑に進めるために、PowerPoint の発表者ツールのご使用はご遠慮ください。
7. 必ず事前にウイルスチェックを行ってください。
8. 発表は、舞台上にセットされているモニター、キーボード、マウスを使用し、発表者ご自身で操作してください。
9. 発表データは学会終了後、事務局が責任を持って消去いたします。

緊急時の対応

新型コロナウイルスに感染、もしくは濃厚接触に該当した場合、当日の現地参加はご遠慮いただきます。発表予定者で、開催前日までに判明した場合には、事務局へご連絡をお願いします。動画投影などご相談させていただきます。

日本眼腫瘍学会役員一覧

役職別 50音順(2022年4月現在)

名誉会員(敬称略)	役職	氏名	所属
猪俣 孟	理事長	古田 実	相馬中央病院/福島県立医科大学
上野 脩幸	理事	安積 淳	神戸海星病院
大西 克尚	理事	上田 幸典	聖隷浜松病院
沖坂 重邦	理事	白井 嘉彦	東京医科大学
金子 明博	理事 (監事)	江口 功一	江口眼科医院/新潟大学
玉井 信	理事	大湊 絢	新潟大学
松尾 信彦	理事 (学術・広報)	小幡 博人	埼玉医科大学総合医療センター
箕田 健生	理事	加瀬 諭	北海道大学
中村 泰久	理事 (監事)	兒玉 達夫	島根大学
八子 恵子	理事	後藤 浩	東京医科大学
物故会員	理事	敷島 敬悟	東京慈恵会医科大学
加藤桂一郎	理事 (学術・広報)	鈴木 茂伸	国立がん研究センター中央病院
雨宮 次生	理事	高橋 寛二	関西医科大学
	理事	高比良雅之	金沢大学
	理事	高村 浩	公立置賜総合病院/山形大学
	理事	田邊 美香	九州大学
	理事	辻 英貴	がん研究会有明病院
	理事	林 暢紹	須崎くろしお病院/高知大学
	理事	溝田 淳	帝京大学
	理事	柚木 達也	富山大学
	理事	吉川 洋	宗像眼科クリニック/九州大学
	理事	渡辺 彰英	京都府立医科大学
	顧問	小島 孚允	小島眼科医院/さいたま赤十字病院
	顧問	大島 浩一	国立病院機構岡山医療センター
	顧問	嘉鳥 信忠	大浜第一病院/聖隷浜松病院

学会の歴史

日本眼腫瘍学会は昭和58(1983)年に研究会として発足し、年一回の学術大会を重ねながら、東日本大震災のあった平成23(2011)年の福島大会からは学会に改組されました。

回	会 期	会 場	会 長
第1回	1983年(S58)6月10日	富山医科薬科大学病院	中村 泰久 富山医科薬科大学
第2回	1984年(S59)10月20日	京大会館	雨宮 次生 京都大学
第3回	1985年(S60)9月7日	九大同窓会館	猪俣 孟 九州大学
第4回	1986年(S61)8月16日	順大有山記念講堂	沖坂 重邦 防衛医科大学
第5回	1987年(S62)9月20日	福島グリーンパレス	加藤桂一郎 福島県立医科大学
第6回	1988年(S63)9月4日	国際研究交流会館	金子 明博 国立がんセンター
第7回	1989年(H1)11月18日	岡大医学部図書館	松尾 信彦 岡山大学
第8回	1990年(H2)7月27日	仙台市民会館	玉井 信 東北大学
第9回	1991年(H3)8月2日	北大学術交流会館	松田 英彦 北海道大学
第10回	1992年(H4)6月20日	幕張メッセ国際会議場	箕田 健生 帝京大学市原
第11回	1993年(H5)10月6日	長崎大学医学部記念講堂	雨宮 次生 長崎大学
第12回	1994年(H6)9月26日	九大同窓会館	猪俣 孟 九州大学
第13回	1995年(H7)8月10～11日	高知県教育会館	上野 脩幸 高知医科大学
第14回	1996年(H8)10月5日	興和ビル大ホール	沖坂 重邦 防衛医科大学
第15回	1997年(H9)10月25日	裏磐梯猫魔ホテル	加藤桂一郎 福島県立医科大学
第16回	1998年(H10)9月5日	国際研究交流会館	金子 明博 国立がんセンター
第17回	1999年(H11)9月25日	大宮ソニックシティホール	小島 孚允 大宮赤十字病院
第18回	2000年(H12)6月23日	仙台市民会館	玉井 信 東北大学
第19回	2001年(H13)9月1～2日	ホテルコンコルド浜松	中村 泰久 聖隷浜松病院
第20回	2002年(H14)9月14日	和歌山県立医科大学病院	大西 克尚 和歌山県立医科大学
第21回	2003年(H15)10月9日	岡山コンベンションセンター	大島 浩一 岡山医療センター
第22回	2004年(H16)7月17日	高知市文化プラザ	上野 脩幸 高知大学
第23回	2005年(H17)6月25日	新潟県医師会館大講堂	江口 功一 新潟大学
第24回	2006年(H18)7月28日	札幌医科大学記念ホール	大塚 賢二 札幌医科大学
第25回	2007年(H19)9月29日	大阪赤十字病院 4F 講堂	柏井 聡 大阪赤十字病院
第26回	2008年(H20)11月22日	東京医科大学 6階臨床講堂	後藤 浩 東京医科大学
第27回	2009年(H21)6月20日	山形大学医学部同窓会館	高村 浩 山形大学
第28回	2010年(H22)9月25日	アクトシティー浜松コンgresセンター	嘉島 信忠 聖隷浜松病院
第29回	2011年(H23)6月25～26日	コラッセふくしま	古田 実 福島県立医科大学
第30回	2012年(H24)6月30日～7月1日	栃木県総合文化センター	小幡 博人 自治医科大学
第31回	2013年(H25)9月14～15日	高知市総合あんしんセンター	林 暢紹 須崎くろしお病院／高知大学
第32回	2014年(H26)7月11～12日	静岡県浜松市プレスタワー 静岡新聞ホール	辻 英貴 がん研有明病院
第33回	2015年(H27)10月3～4日	くにびきメッセ	兒玉 達夫 島根大学
第34回	2016年(H28)10月1～2日	シマブンビル	安積 淳 神戸海星病院
第35回	2017年(H29)9月23～24日	両国 KFC ホール	溝田 淳 帝京大学
第36回	2018年(H30)11月3～4日	金沢市アートホール	高比良雅之 金沢大学
第37回	2019年(R1)9月28～29日	東京慈恵会医科大学 西新橋キャンパス 2号館講堂	敷島 敬悟 東京慈恵会医科大学
	2020年(R2)9月26～27日	COVID-19のため中止 1年延期	
第38回	2021年(R3)9月4～5日	九州大学医学部百年講堂	吉川 洋 九州大学
第39回	2022年(R4)9月17～18日	国立がん研究センター 新研究棟大会議室	鈴木 茂伸 国立がん研究センター

日本眼腫瘍学会会則 Japanese Society of Ocular Oncology (JSOO)

第1章 総則

(名 称)

第1条 本会は日本眼腫瘍学会 (Japanese Society of Ocular Oncology, JSOO) と称する。

(事務局)

第2条 スタッフルームタケムラ有限会社内に置く。

第2章 目的および事業

(目 的)

第3条 本会は眼腫瘍に関する最新の情報交換と会員相互の研鑽を目的とする。

(事 業)

第4条 本会は前条の目的を達成するため次の事業を行なう。

- (1) 総会の開催
- (2) 会誌の発行
- (3) その他、本会の目的を達成するために必要な事業

第3章 会員

(種 別)

第5条 本会の会員は、眼腫瘍に興味を持つ眼科医 (研修医を含む) およびその他の関係者をもって構成する。

- (1) 正会員
- (2) 名誉会員
- (3) 賛助会員

(入 会)

第6条 (1) 新規入会
所定の入会申込書に年会費を添えて本会事務局に提出し、理事会の承認を得なければならない。

- (2) 再入会
資格喪失者が再び入会を希望する場合、過去の日本眼腫瘍学会員期間の年次会費の未納分があれば完納した上で、(1) 新規入会手続きを行なう事ができる。

第7条 正会員は眼腫瘍の研究または診療に従事している者で、第6条の手続きを完了し、日本眼腫瘍学会員期間の年次会費を完納した者とする。

第8条 名誉会員は、眼腫瘍研究の発展に特に功績のあった者で、理事会が推薦し、決定する。

第9条 賛助会員は、本会の事業を奨助するため所定の賛助会費を納入する団体および個人とする。

(入会員および会費)

第10条 正会員の年会費は5,000円とする。なお、賛助会員の年会費は50,000円とする。

第11条 名誉会員は年会費を免除する。

(資格の喪失)

第12条 会員が次の各号に該当した場合は、その資格を喪失するものとする。

- (1) 退会したとき
- (2) 理事会の議決によって除名されたとき

(退 会)

第13条 会員が退会する場合には、事前にその旨を本会事務局に届け出なければならない。

(除 名)

第14条 会員が次の各号に該当するときは、理事会の議決により退会させることがある。

- (1) 本会会員として著しく品位を欠く行為があったとき
- (2) 会費を3年以上滞納したとき

第4章 役員

(役 員)

第15条 本会に正会員の中から次の役員をおく。

- | | |
|---------------|-----|
| (1) 理 事 長 | 1 名 |
| (2) 理 事 | 若干名 |
| (3) 監事担当理事 | 2 名 |
| (4) 学術・広報担当理事 | 2 名 |
| (5) 総 会 長 | 1 名 |
| (6) 顧 問 | 若干名 |

(理 事)

第16条 理事は理事会を構成し、会の運営に必要な諸事項を審議決定する。

第17条 理事長は理事の互選によって選出される。理事長は本会を代表し、会務を掌握し、理事会を招集する。理事長は収支予算および決算、役員人事など主な会務について、総会もしくはその他の方法により、会員に報告しなければならない。

(監事担当理事)

第18条 監事担当理事は理事会で理事の中から選出される。

監事担当理事は本会の財産、会計および会務の執行を監査し、理事会において意見を述べる事ができる。

(学術・広報担当理事)

第19条 学術・広報担当理事は理事会で理事の中から選出される。学術・広報担当理事は会誌の発行、投稿論文の査読、広報業務などを行う。

(総会長)

第20条 総会長は理事会で選出される。総会長は当該年度の総会運営に当たる。

(顧問)

第21条 顧問は、眼腫瘍研究の発展に特に功績のあった者で、理事会が推薦し、決定する。顧問は、本学会の運営が適正に行われるよう理事会等において指導する立場にある。

(役員の任期と欠員について)

第22条 理事長、理事、監事担当理事、学術・広報担当理事の任期は3年間とする。ただし、理事長の連続任期は6年間までとする。理事、監事担当理事、学術・広報担当理事は再任を妨げない。理事の年齢は65歳を超えないこととする。役員に欠員が生じた場合の補充とその方法については、理事会でこれを決定する。総会長の任期は担当する総会が終了するまでとし、次年度総会長にその職務を引き継ぐものとする。総会長は連続して就任することはできない。ただし、再任を妨げない。

第5章 総会・理事会

(総会)

第23条 原則として総会を毎年1回開催する。開催時期は理事会と総会長の合議で決定する。総会での筆頭演者は本学会員でなければならない。総会長は会員以外の者を総会に招請し、総会で発表させることができる。

(理事会)

第24条 理事会は理事をもって組織し、原則として総会期間中に以下の事項を審議する。なお、理事会には理事長、総会長の承認を経て、関係者の参加を許可することがある。

- (1) 毎年度の事業および会計
- (2) その他、理事会が必要と認めた事項
- (3) 理事会は理事の3分の2以上の出席をもって成立する。ただし、予め委任状を提出した者は出席者とみなす。
- (4) 理事会の審議は出席理事の過半数をもって決し、可否同数のときは理事長の決するところによる。
- (5) 臨時に審議する必要がある事項に関して、理事長は全理事に持ち回り審議を依頼し、上記(3)(4)の決定方法に準拠して決する。

第6章 会計

(会計年度)

第25条 本会の会計年度は毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終了とする。

(事務局の経費)

第26条 本会の事務局の運営に要する経費は年会費をもってこれに充てる。

(総会の運営費)

第27条 総会の運営費は総会の都度、参加費などを徴収してこれに充てる。参加費の額は年度毎に総会長が決定する。会員以外の講演者を総会に招請した場合、総会長もしくは理事会の裁量により、参加費を免除することがある。

(事業計画書および収支予算書の作成)

第28条 事業の円滑な運営のため、理事長は事業計画書および収支予算書を毎会計年度開始前に作成し、理事会の承認を得て確定する。

(予備費の計上と使用)

第29条 予算年度内に生じる予測しがたい支出に対応するため、予算規模に見合った予備費を計上する。

第30条 予備費の使用に当たっては、使用理由と金額、および積算の根拠を明らかにした上で、理事長と理事会の承認が必要である。

第7章 会則の変更

(会則の変更)

第31条 この会則は理事会の議決を経て変更することができる。

[附 則]

この会則は平成22年10月10日から施行する。

変更履歴

平成26年7月11日	理事長変更による事務局の変更
平成29年9月23日	理事長変更による事務局の変更
平成30年11月3日	理事会の持ち回り審議と収支予算書と予備費の計上の新設
平成30年11月14日	理事および顧問の定義の明文化
令和元年9月30日	事務局移転による変更
令和2年7月8日	理事長任期の変更
令和2年11月5日	会員資格と再入会手続きの明文化
令和3年4月1日	事務局移転による変更

最終変更日：令和3(2021)年4月1日

日 程 表

1日目 9月17日 土 国立がん研究センター
新研究棟大会議室

9:00	8:55～9:00 開会式
	9:00～9:48 一般口演 1 O1-1～O1-4 [結膜・眼瞼 1] 座長：小幡 博人(埼玉医科大学総合医療センター) 大湊 絢(新潟大学)
10:00	9:48～10:36 一般口演 2 O2-1～O2-4 [眼瞼 2] 座長：渡辺 彰英(京都府立医科大学) 柚木 達也(富山大学)
11:00	10:45～11:33 一般口演 3 O3-1～O3-4 [眼窩 1] 座長：上田 幸典(聖隷浜松病院) 敷島 敬悟(東京慈恵会医科大学)
12:00	11:33～12:21 一般口演 4 O4-1～O4-4 [眼窩 2] 座長：安積 淳(神戸海星病院) 高村 浩(公立置賜総合病院)
13:00	12:35～13:35 [会場：セミナールーム] ランチョンセミナー 1 涙腺腫瘍の診療アップデート 座長：後藤 浩(東京医科大学) 鈴木 茂伸(国立がん研究センター中央病院) 演者：鈴木 茂伸(国立がん研究センター中央病院) 後藤 浩(東京医科大学) 小川 葉子(慶應大学) 共催：参天製薬株式会社
14:00	13:50～14:05 総会
	14:05～14:10 JCOTS 報告
15:00	14:20～14:56 一般口演 5 O5-1～O5-3 [脈絡膜悪性黒色腫] 座長：溝田 淳(帝京大学) 鈴木 茂伸(国立がん研究センター中央病院)
16:00	15:00～16:00 特別講演 眼原発メラノーマの進行例に対する 薬物治療について 座長：鈴木 茂伸(国立がん研究センター中央病院) 演者：山崎 直也(国立がん研究センター中央病院)
17:00	16:15～17:03 一般口演 6 O6-1～O6-4 [眼内 1] 座長：高橋 寛二(関西医科大学) 辻 英貴(がん研究会有明病院)
18:00	17:03～18:03 一般口演 7 O7-1～O7-5 [眼内 2] 座長：林 暢紹(須崎くろしお病院) 田邊 美香(九州大学)

2日目 9月18日 日 国立がん研究センター
新研究棟大会議室

9:00	9:00～10:00 一般口演 8 O8-1～O8-5 [付属器リンパ腫・リンパ増殖性疾患] 座長：高比良 雅之(金沢大学) 加瀬 諭(北海道大学)
10:00	10:00～10:15 緊急提言
11:00	10:30～11:06 一般口演 9 O9-1～O9-3 [遺伝子] 座長：白井 嘉彦(東京医科大学) 鈴木 茂伸(国立がん研究センター中央病院)
12:00	11:06～12:06 シンポジウム 眼腫瘍における疫学研究・データサイエンス 座長：古田 実(相馬中央病院) 鈴木 茂伸(国立がん研究センター中央病院) 演者：木戸 愛(京大眼科・京都岡本記念病院) 古田 実(相馬中央病院) 秋山 正人(九州大学)
13:00	12:20～13:20 [会場：セミナールーム] ランチョンセミナー 2 PCNSL：眼科医と脳腫瘍治療医の連携の 重要性と治療動向 座長：蕪城 俊克(自治医科大学附属さいたま医療センター) 演者：山口 秀(北海道大学大学院医学研究院) 共催：小野薬品工業株式会社
13:20	13:20～13:30 閉会式・次期会長挨拶
14:00	
15:00	
16:00	
17:00	
18:00	

プログラム

第1日目 2022年9月17日(土)

開会式 8:55～

一般口演1 9:00～9:48

[結膜・眼瞼1]

座長：小幡 博人(埼玉医科大学総合医療センター)
大湊 絢(新潟大学)

O1-1 原因不明の両側瞼球癒着に合併した、角結膜上皮内異形成症の一例

○三野 麻以、大島 浩一、神農 陽子
岡山医療センター

O1-2 涙丘に発生した基底細胞癌の2例

○三木 謙輔、馬詰 和比古、曾根 久美子、嶺崎 輝海、白井 嘉彦、後藤 浩
東京医大

O1-3 母斑様の形態を呈した微小な眼瞼基底細胞癌の1例

○武田 知佳¹⁾、加瀬 諭¹⁾、高桑 恵美²⁾、石田 晋¹⁾
1)北海道大、2)北海道大 病理

O1-4 眼瞼表在性血管粘液腫の1例

○兒玉 達夫¹⁾²⁾、杉原 一暢²⁾、谷戸 正樹²⁾、片岡 祐子³⁾、門田 球一³⁾
1)島根大・先端がん治療センター、2)島根大、3)島根大・病理部

一般口演2 9:48～10:36

[眼瞼2]

座長：渡辺 彰英(京都府立医科大学)
柚木 達也(富山大学)

O2-1 若年性黄色肉芽種症の2例

○望月 有子¹⁾、上田 幸典¹⁾、熊切 将宜¹⁾、小島 康孝¹⁾、清水 英幸¹⁾、嘉島 信忠¹⁾²⁾
1)聖隷浜松病院 眼形成眼窩外科、2)大浜第一病院

O2-2 上眼瞼縁に生じ脂腺癌に類似した所見を呈した steatocystoma simplex の一例

○多田 篤史¹⁾、小野 祐子²⁾、小島 孚允³⁾、町田 繁樹¹⁾
1)獨協医大・越谷、2)獨協医大・病理、3)小島眼科医院

O2-3 放射線療法を行った眼瞼脂腺癌の1例

○末岡 健太郎¹⁾、勝田 剛²⁾、吉富 寿々¹⁾、木内 良明¹⁾
1)広島大、2)広島大・放射線治療科

O2-4 肝転移により死に至った眼瞼脂腺癌の一例

○今川 幸宏¹⁾²⁾³⁾、森田 耕輔¹⁾、松浦 峻行¹⁾、三村 真士¹⁾、高木 麻衣²⁾、佐藤 文平²⁾、
喜田 照代³⁾
1)大阪回生病院 眼形成手術センター、2)大阪回生病院、3)大阪医薬大

[眼窩1]

座長：上田 幸典(聖隷浜松病院)
敷島 敬悟(東京慈恵会医科大学)

03-1 ANCA 関連血管炎由来と思われる眼窩肉芽腫性病変での圧迫性視神経症の1例

○田上 瑞記、坂井 淳、三澤 宜彦、春名 優甫、本田 茂
大阪公大

03-2 特発性眼窩炎患者の2つのサブグループ間の臨床的異質性

○久保田 敏信
名古屋医療センター

03-3 視神経膠腫に対する治療：標準治療と個別治療

○柳澤 隆昭¹⁾⁴⁾、太田 千寿瑠²⁾、笹本 武明²⁾、田中 克侑²⁾、本多 隆也²⁾、山岡 正慶²⁾、
秋山 政晴²⁾、鈴木 智成⁴⁾、敷島 敬悟³⁾
1)東京慈恵医大・脳神経外科、2)東京慈恵医大・小児科、3)東京慈恵医大、
4)埼玉医大・国際医療セ・脳脊髄腫瘍科

03-4 眼窩神経周膜腫の1例

○清水 英幸、望月 有子、熊切 将宜、小島 康孝、嘉島 信忠、上田 幸典
聖隷浜松病院 眼形成眼窩外科

[眼窩2]

座長：安積 淳(神戸海星病院)
高村 浩(公立置賜総合病院)

04-1 眼窩内海綿状血管腫の臨床像の検討

○奥 拓明¹⁾、渡辺 彰英¹⁾、米田 亜規子¹⁾、中山 知倫²⁾、外園 千恵¹⁾
1)京都府医大、2)京都田辺中央病院

04-2 涙腺原発癌の臨床像の検討

○村井 佑輔、岡 隼生、安積 淳
神戸海星病院

04-3 涙腺に発生した扁平上皮癌の1例

○曾根 久美子¹⁾、馬詰 和比古¹⁾、松林 純²⁾、後藤 浩¹⁾
1)東京医大、2)東京医大 人体病理

04-4 緩和的眼窩内容除去に至った涙腺原発腺癌の一例

○大湊 絢¹⁾、塩崎 直哉¹⁾、張 大行²⁾、福地 健郎¹⁾、周 啓亮³⁾、押金 智哉⁴⁾、
田口 貴博⁵⁾、三ツ井 彩花⁵⁾、梅津 哉⁵⁾
1)新潟大、2)さど眼科、3)新潟大 腫瘍内科、4)新潟大 放射線科、5)新潟大 病理部

座長：後藤 浩（東京医科大学）

鈴木 茂伸（国立がん研究センター中央病院）

〔 涙腺腫瘍の診療アップデート 〕

1 涙腺腫瘍の診断と治療および症例揭示

診断編

鈴木 茂伸 国立がん研究センター中央病院

治療編

後藤 浩 東京医科大学

2 涙腺腫瘍によるドライアイの病態と治療

小川 葉子 慶應義塾大学／新宿シティ眼科

総 会 13:50～14:05

JCOTS 報告 14:05～14:10

一般口演5 14:20～14:56

〔 脈絡膜悪性黒色腫 〕

座長：溝田 淳（帝京大学）

鈴木 茂伸（国立がん研究センター中央病院）

O5-1 脈絡膜悪性黒色腫に対する重粒子線治療の長期成績

○若月 優¹⁾、青木 秀梨¹⁾、牧島 弘和²⁾、辻 比呂志¹⁾、石川 仁¹⁾、山田 滋¹⁾、溝田 淳³⁾

1) 量研機構 QST 病院、2) 筑波大 放射線腫瘍科、3) 帝京大

O5-2 脈絡膜悪性黒色腫の治療前に硝子体手術を受け前房浸潤が見られた3例

○山野邊 麻里¹⁾、溝田 淳¹⁾、井上 裕治¹⁾、水野 嘉信¹⁾、若月 優²⁾、安積 淳³⁾

1) 帝京大、2) 量研機構 QST 病院、3) 神戸海星病院

O5-3 隣転移をきたした脈絡膜悪性黒色腫の1例

○田口 怜¹⁾、溝田 淳¹⁾、井上 裕治¹⁾、水野 嘉信¹⁾、若月 優²⁾、望月 眞³⁾

1) 帝京大、2) 量研機構 QST 病院、3) 帝京大・病理部

特別講演 15:00～16:00

座長：鈴木 茂伸（国立がん研究センター中央病院）

〔 眼原発メラノーマの進行例に対する薬物治療について 〕

山崎 直也 国立がん研究センター中央病院 皮膚腫瘍科

[眼内1]

座長：高橋 寛二(関西医科大学)
辻 英貴(がん研究会 有明病院)

06-1 当院で経験した脈絡膜骨腫9例の臨床像

- 砂田 潤希¹⁾、田邊 美香²⁾、船津 治彦²⁾、秋山 雅人²⁾、狩野 久美子²⁾、吉川 洋²⁾、
木村 和博¹⁾、園田 康平²⁾
1)山口大学、2)九州大

06-2 視機能の低下を伴った両眼性脈絡膜骨腫の親子例

- 中田 梨沙¹⁾、山本 香織¹⁾、川上 摂子¹⁾、山田 眞²⁾、後藤 浩¹⁾
1)東京医大、2)山田医院

06-3 毛様体腫瘍に対して硝子体手術併用局所切除を行った一例

- 坂井 淳、田上 瑞記、春名 優甫、三澤 宣彦、本田 茂
大阪公大

06-4 脈絡膜に生じた神経鞘腫

- 辻 英貴¹⁾、吉田 淳¹⁾、竹内 賢吾²⁾
1)がん研有明病院、2)がん研究所 病理部

[眼内2]

座長：林 暢紹(須崎くろしお病院)
田邊 美香(九州大学)

07-1 両眼に多発し手術加療を要した虹彩色素上皮嚢胞の1例

- 中島 勇魚¹⁾、溝渕 朋佳¹⁾、杉本 光生¹⁾、西内 貴史¹⁾、辻 英貴²⁾、福田 憲¹⁾、
山城 健児¹⁾
1)高知大、2)がん研有明

07-2 網膜 astrocytic hamartoma が疑われた小児の1例

- 山田 祐太郎、竹本 大輔、高比良 雅之、東出 朋巳、濱岡 祥子、杉山 和久
金沢大

07-3 放射線治療が有効であった VHL に伴う傍視神経乳頭部血管腫の1例

- 船津 治彦¹⁾、田邊 美香¹⁾、秋山 雅人¹⁾、向野 利一郎¹⁾、糸谷 真保²⁾、吉川 洋¹⁾、
久保田 敏昭²⁾、園田 康平¹⁾
1)九州大、2)大分大

07-4 早期から治療介入できた肺腺癌眼内転移の2例

- 岡 隼生¹⁾、村井 佑輔¹⁾、安積 淳¹⁾、小南 亮太²⁾、高橋 良³⁾
1)神戸海星病院、2)姫路医療センター、3)兵庫医大

07-5 多彩な眼所見を呈した低悪性度脈絡膜原発リンパ腫と考えられた1例

- 後藤 浩、馬詰 和比古、山川 直之
東京医大

第2日目 2022年9月18日(日)

一般口演8 9:00～10:00

[付属器リンパ腫・リンパ増殖性疾患]

座長：高比良 雅之(金沢大学)
加瀬 諭(北海道大学)

08-1 放射線治療を行なった結膜 MALT リンパ腫の臨床病理学的検討

○水門 由佳、加瀬 諭、石田 晋
北海道大

08-2 眼付属器びまん性大細胞型 B 細胞リンパ腫のフローサイトメトリーと臨床病理学的特徴

○三田村 瑞穂¹⁾、加瀬 諭¹⁾、鈴木 康夫²⁾、坂口 貴鋭²⁾、水門 由佳¹⁾、加瀬 学²⁾、石田 晋¹⁾
1)北海道大、2)手稲溪仁会病院

08-3 眼瞼悪性リンパ腫の1例

○吉富 寿々、末岡 健太郎、木内 良明
広島大

08-4 臨床的に IgG4 関連眼疾患が疑われるも Erdheim-Chester 病の診断に至った1例

○深井 亮祐¹⁾、坪田 欣也¹⁾、吉澤 成一郎²⁾、後藤 明彦²⁾、後藤 浩¹⁾
1)東京医大、2)東京医大 血液内科

08-5 IgG4 関連疾患診療ガイドンスにおける眼科関連項目の検討

○高比良 雅之¹⁾、安積 淳²⁾、臼井 嘉彦³⁾、大島 浩一⁴⁾、小川 葉子⁵⁾、尾山 徳秀⁶⁾、北川 和子⁷⁾、鈴木 茂伸⁸⁾、曾我部 由香⁹⁾、辻 英貴¹⁰⁾、古田 実¹¹⁾、後藤 浩³⁾
1)金沢大、2)神戸海星病院、3)東京医大、4)岡山医療センター、5)慶應大、
6)うおぬま眼科、新潟大、7)金沢医大、8)国立がん研究センター、9)三豊総合病院、
10)がん研究有明病院、11)相馬中央病院

緊急提言 10:00～10:15

[眼腫瘍の専門家を育成するために]

鈴木 茂伸 国立がん研究センター中央病院 眼腫瘍科 科長

[遺伝子]

座長：白井 嘉彦(東京医科大学)

鈴木 茂伸(国立がん研究センター中央病院)

09-1 最近5年間のぶどう膜悪性黒色腫のゲノム解析

○柏木 広哉¹⁾、吉川 周佐²⁾、清原 祥夫²⁾、後藤 啓介³⁾、大島 啓一⁴⁾、長島 剛史⁴⁾、
浦上 研一⁴⁾、秋山 靖人⁴⁾、山口 建⁴⁾

1) 県立静岡がんセンター、2) 県立静岡がんセンター 皮膚科、3) 県立静岡がんセンター 病理、

4) 県立静岡がんセンター研究所

09-2 がん遺伝子パネル検査を行った眼部悪性腫瘍4例の経験

○白井 嘉彦、坪田 欣也、木下 悠人、後藤 浩

東京医大

09-3 日本人眼瞼基底細胞癌のエクソームシーケンス

○秋山 雅人

九州大

座長：古田 実(相馬中央病院)

鈴木 茂伸(国立がん研究センター中央病院)

[眼腫瘍における疫学研究・データサイエンス]

S-1 レセプトデータの活用

○木戸 愛¹⁾²⁾

1) 京大眼科 客員研究員・非常勤講師、2) 京都岡本記念病院 眼科医長

S-2 眼腫瘍診断の人工知能

○古田 実¹⁾²⁾、前原 紘基²⁾、上野 勇太³⁾、吉川 洋⁴⁾、大島 浩一⁵⁾、高比良 雅之⁶⁾、
加瀬 諭⁷⁾、敷島 敬悟⁸⁾、諏訪 貴大⁹⁾、茅 暁陽⁹⁾、大鹿 哲郎³⁾、

日本眼腫瘍学会・眼部腫瘍 AI スタディグループ

1) 相馬中央病院、2) 福島県医大、3) 筑波大、4) 九州大、5) 岡山医療センター、6) 金沢大、

7) 北海道大、8) 慈恵医大、9) 山梨大コンピュータ理工学科

S-3 眼腫瘍領域におけるオミクス研究と診療への活用

○秋山 雅人

九州大学大学院医学研究院 眼病態イメージング講座・講師

〔 PCNSL：眼科医と脳腫瘍治療医の連携の重要性と治療動向 〕

山口 秀 北海道大学大学院医学研究院 脳神経外科学教室 講師

特別講演
抄 録

眼原発メラノーマの進行例に対する薬物治療について

山崎 直也(やまざき なおや)

国立がん研究センター中央病院 皮膚腫瘍科



略 歴

1985年 岐阜大学医学部 卒業
1987年 国立がんセンター 第19期レジデント
1990年 国立がんセンター
第1期がん専門修練医
1992年 国立がんセンター中央病院
皮膚科医員
2003年 国立がんセンター中央病院
遺伝子免疫療法室医長
2005年 国立がんセンター中央病院
皮膚科医長
2010年 国立がん研究センター中央病院
皮膚腫瘍科科長
現在に至る

当科では以前から眼科と協力して眼原発メラノーマの転移、再発例について薬物治療を行ってきた。

脈絡膜原発メラノーマが転移する場合、高頻度に肝転移であり、また肝転移のみであることが多いため、かつて肝転移に対する局所療法としてシスプラチンなど白金製剤を用いた肝動脈塞栓療法(transcatheter arterial chemoembolization: TACE)について症例を集積し、一定の効果とそれに伴う知見を得たため、この治療法の有効性と安全性について報告した。

ただ、転移は肝臓にだけに起こる訳ではなく進行例に対する治療は全身薬物療法として行うことが原則として考えられる。

近年のメラノーマに対する薬物療法の進歩は免疫チェックポイント阻害薬と低分子性分子標的薬の2つの柱によってなされている。脈絡膜メラノーマの場合原則としてBRAF 遺伝子変異が見られないため、進行例に対してほぼ全例で免疫チェックポイント阻害薬の治療対象となるが皮膚原発メラノーマと比較した場合治療効果が非常に限定的であることが知られている。

一方、発生頻度がさらに低い結膜原発メラノーマは脈絡膜原発のものとは特徴が異なり、しばしばリンパ行性に頸部リンパ節転移を生じることを経験し、また血行性に遠隔転移を生じる場合、内臓転移の傾向も脈絡膜原発のものとは異なる。頻度は低いものの BRAF 遺伝子変異陽性例も散見される。

ここでは脈絡膜メラノーマ及び結膜メラノーマの臨床的な特徴と進行例に対する治療の過去・現在・未来について述べるとともに若干の考察を加える。

一 般 口 演
抄 録

01-1 原因不明の両側瞼球癒着に合併した、角結膜上皮内異形成症の一例

○三野 麻以(みの まい)、大島 浩一、神農 陽子
岡山医療センター

【はじめに】眼表面の類天疱瘡に、上皮内異形成や扁平上皮癌を併発することが報告されている。実は類天疱瘡の診断は難しい。しかし眼表面新生物は試験切除してH. E. 染色標本を観察すれば、比較的容易に診断できる。われわれは原因不明の瞼球癒着に合併した、角結膜上皮内異形成症を経験したので報告する。

【症例】患者は49歳の女性であった。両眼結膜病変の精査・加療を目的として近医眼科から紹介された。両眼とも下方円蓋部に瞼球癒着を伴う癒痕があった。さらにこれを覆う形で瞼結膜・球結膜から角膜にかけて、白濁した扁平な病変があった。これらの異常な角結膜上皮は、フルオレセインとローズベンガルに染まった。患者は4年前から結膜病変を自覚していたが、最近になり、白濁が角膜に及んでいることに気づいた。

X+1月後、左眼角結膜病変を試験切除した。病理診断は上皮内異形成症であった。当初より類天疱瘡を疑っていたので、外注検査会社に蛍光抗体法を依頼した。しかし適用臓器が腎・皮膚のみで、結膜組織を取り扱った経験がないという理由で、検査できなかった。

X+4月後、左側結膜病変を再度試験切除した。HPV ジェノタイプ判定は陰性であった。

X+6月後、左眼に5-FU 点眼を開始した。上皮病変は厚さと範囲が縮小しつつある。

【結語】原因不明の瞼球癒着があり、その表面が白濁している症例をみたら、上皮内異形成などの新生物を考慮しなければならない。

【利益相反】なし

01-2 涙丘に発生した基底細胞癌の2例

○三木 謙輔(みき けんすけ)、馬詰 和比古、
曾根 久美子、嶺崎 輝海、白井 嘉彦、
後藤 浩
東京医大

【緒言】基底細胞癌(BCC)は眼瞼、特に下眼瞼に好発する悪性腫瘍であり、予後は比較的良好な腫瘍である。一方、結膜に発生するBCCは極めて稀である。今回、涙丘に発症したBCCの2例を経験し、それぞれ異なる経過を示したので報告する。

【症例】症例1は76歳の女性。左眼の涙丘部に3mm大の母斑様の黒色腫瘍の存在に気付き、当科を紹介受診した。病巣を完全切除したところ、病理組織学的に基底細胞癌の診断に至った。その後、局所再発はみられていない。

症例2は52歳の男性。左内眼角部に10mm大の赤桃色で色素を伴わない腫瘍の精査目的に当科を紹介受診となった。腫瘍の一部を生検したところ、BCCの診断であった。MRIで鼻側眼窩内への浸潤が確認されたが、PET-CTでは他に異常集積像はみられなかった。初診時から左眼に流涙の訴えがみられたことから涙道内視鏡検査を施行したところ、上涙小管内に黄白色の腫瘍が確認されたため、経皮的に生検を行ったところ、同部位もBCCの診断であった。なお、後日の検索で涙嚢内への浸潤はみられなかった。根治目的に全身麻酔下で腫瘍と涙嚢壁の癒着を解除し、可及的に腫瘍の切除を行い、その後は現在まで局所再発はみられていない。

【結論】涙丘に発症するBCCは極めて稀なため、臨床的に鑑別疾患として本症を想起することは困難かもしれない。症例によって経過も異なる可能性があることにも留意する必要がある。

【利益相反】なし

第40回日本眼腫瘍学会のご案内

- 会 期：2023年（令和5）年9月23日（土）～24日（日）
- 会 場：なんばスカイオコンベンションホール
- 会 長：高橋 寛二（関西医科大学）

第39回日本眼腫瘍学会 プログラム・講演抄録集

会 長：鈴木 茂伸

事務局：国立がん研究センター中央病院 眼腫瘍科
〒104-0045 東京都中央区築地5-1-1
E-mail：jsoo39@procom-i.jp

出 版：株式会社セカンド
〒862-0950 熊本市中央区水前寺4-39-11 ヤマウチビル1F
TEL：096-382-7793 FAX：096-386-2025
<https://secand.jp/>